

検討課題と考え方

1 対象校選定

(1) 目標

- ・ 2 年次、3 年次対象校への校長、教頭、推進教員の人事配置
- ・ 2 年次、3 年次対象校において「選定理由」として耐えられる実績づくり

(2) 不確定要因への対応

- ・ 対象校が確定できないときは、パターン別に候補校を選定、確定し、すべての候補校について、改革推進のための人事配置を実施する。

(3) 期限

- ・ 1 2 年度人事異動に反映するためには、1 2 月中に対象校を確定する必要がある。

2 選定にあたって、整理すべき課題

① 2 学区の学級減状況

- ・ 1 2 年度募集学級状況からは、「学校の小規模化が進んでいる」との理由は使えない。
 対応 1 → 実施年度を繰り下げる → 地元議員対策は可能か
 対応 2 → 「1 4 年度募集学級見込み数」を判断基準として使う。 → すべての通学区域においてデータを出して論理破綻をきたさないよう検証する必要あり。
 また、3 年次以降も同様の対応をする必要がある。

② 2 学区の対象校

- ・ 単位制高校 進学対応か多様化対応か → 学区におけるニーズ判断が重要
 判断を誤ると反対運動が市民運動化する土壤

	新校に対する評価	既存校存置に対する期待	反対運動
進学型 (三島)	○?	×	大
多様化型 (芥川)	×	○	小

③ 6 学区の専門高校

- ・ 港南-住之江 → 総合造形の出口問題
 → 「住之江つぶし」でよいのか → これまでの検討結果は?
- ・ 住吉単独 → 西成の扱いが問題 西成-住之江は困難度大
- ・ 住吉統合 → 相手先は
 → 「住吉-?」「西成単独」でいくと住之江の扱いが問題

④ 9 学区の校長問題

- ・ 砂川を貝塚に差し替えると定時制問題に突入することになる。
 → 8 学区堺東を先行し、「看護コース」を設置

3 府議会対策

4 地元対策

①地元要望

- ・ 2年次以降は、特色づくりの積極的必然性が弱い
 - 高槻：生徒減少が公表時点では進んでいない
 - 八尾：特色づくりへの取組み実績が弱い
 - 守口：守口関係者の反応が微妙
- ・ 反対運動は、1年次の反省を踏まえ、早期に組織化を着手すると思われる。また情緒に訴えた「市民運動型」をより強力に展開すると思われる。



○地元自治体からの「積極誘致型」の要望が必要

②手法

- ・ 地元府議を核として勉強会等を行い下地づくり
- ・ 市教委が公式に「フォーラム」等を開催し、条件整備
- ・ 地元市議へは、府議を通じて情報提供して滲み出し。条件整備後、市教委が根回し。
- ・ 府議、市教委へのアプローチ順は、信頼度によって変更もあり。

③情報管理

- ・ 対象校名耳打ちのタイミング → 6月頃か それまでは、水面下
- ・ 6月までは、「特色づくり」で勉強会、フォーラムを回していく
- ・ しかし、本当のところを匂わさないと、府議、市教委とも乗ってこない。
→阿吽の呼吸の世界

○各市教委の信頼度確認→義務との連携

5 PR戦略

①情報浸透

- ・ 「20校つぶし反対」の方が浸透

(反対運動)

(府教委説明)

単純でわかりやすい

→理屈っぽい(嘘の匂いが付き纏う)

責任が明確(行政が悪い)

→これまでの教育行政の責任を棚上げ

物量面でも優位

→関係者に限定されている



PR戦略の充実が必要

②今後の重点

- ・ 12年度の中学校2年生及びその保護者へPR→パンフ全員配布
- ・ イメージに訴える→PRビデオの作成、全中学校、高校へ配布